

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 4 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	江波戸順史
研究課題	グローバル・ミニマム課税と法人税の国際的調和				
研究キーワード	グローバル・ミニマム課税	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった		
関連するSDGs項目	10.人や国の不平等をなくそう	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

今回、上記テーマに関する研究は計画通りに進まなかった。著書の出版にあたり編集や校正などに多くの時間がとられ他の研究に割く時間が残らなかった。その代わりに『デジタル時代の税制改革』という形で所属する租税論研究会の成果をまとめ上げることができた。担当した第2章の中で、移転価格税制の経験を踏まえて利益Aに係るデジタル課税の意義と課題を明らかにした。長年にわたり中心的に行ってきた移転価格税制の研究を活かすことができたのは喜ばしい。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

特になし

【著書・論文 (査読なし)】

江波戸順史「利益Aに係るデジタル課税の意義と課題—移転価格税制の経験を踏まえて—」諸富徹、宮本十至子、篠田剛『デジタル時代の税制改革：100年ぶりの国際課税改革の分析』(2024)、ミネルヴァ書房。

【学会発表等】

特になし

3. 主な経費

- ・デジタル課税や国際課税関連の書籍の購入
- ・プリンター用インクを購入
- ・パソコンの購入
- ・学会費の支払い

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

租税資料館の出版助成を受けて上記著書 (共著) を出版。

(本文は2ページ以内にまとめること)